

「ながくて幸せのモノサシづくり」 ～市民・行政協働のまちづくり～

「市（町・村）は果たして誰のものなのか？」ありきたりの答えですが「住民」です。しかし、現実はどうかといえば、住民がまちづくりに関わることは少なく、どんな些細なことでさえも、役所にお任せになっていることが多い。住民主体でまちづくりを推進していくために、新たな行政のしくみに変えていくことが必要とされています。長久手市では、市民の力を引き出して、新しい行政のしくみづくりにチャレンジしています。



ワークショップの様子

活動の概要

目的	住民が幸せに生活できる理想のまちづくりをイメージし、その実現を目指して市民と行政の連携により、ながくて幸せのモノサシづくり活動に取り組んでいます。
連携メンバーおよび役割	愛知県長久手市…活動の事務局、資料・施設・設備等の提供、幸せ実感調査の実施 ながくて幸せ実感調査隊…長久手市の幸せ実感調査の企画・分析（調査票作成、分析、まとめ） 関西大学社会学部教授 草郷孝好 …市民・行政協働型自治システム及び幸せ実感調査全般のアドバイス （調査隊ファシリテーション、幸せ実感調査の設計・実施・分析・報告）
活動地域	愛知県長久手市
活動期間	2013年8月～（継続中）
費用	愛知県長久手市による負担

連携の経緯

「幸福度が高いまち＝日本一の福祉のまち」実現を行政目標に掲げる愛知県長久手市から草郷研究室に対し、「新しいまちのかたちづくり」への協力要請があり、草郷が市のアドバイザーに就任し、連携関係が構築された。

解決すべき課題

- (1) 市民一人ひとりの幸福度が高いまちづくりの推進

大学の役割

草郷は、アクション・リサーチ（実践的研究）に取り組む「行動する社会学者」である。アクション・リサーチとは、問題に直面する当事者に対して、社会調査やワークショップなどを通じて、主体的な改善活動を促す先進的な研究手法を指す。

また、草郷は、ブータン発の斬新な社会発展モデル「GNH（国民総幸福）」を日本型GNHへとアレンジし、その導入も提唱している。日本型GNHのエッセンスは、市民自治に根ざす真に豊かな生き方を目指すことのできる地域社会の実現にあり、そのための具体的な仕組みとして、「地域ドック手法」、「地域生活プロセス評価手法」、「生活実感調査」、「エンパワメント評価」を展開している。

これらの手法を総合的にまちづくりに取り入れた代表的な例が、愛知県長久手市における活動である。行政では、住みやすい市（町・村）を目指し、多様な行政サービスを展開している。だが、それは必ずしも、市民の主体性に根ざしたものではなく、市民が受け身に回り市役所任せにする例は多々見受けられ、長久手市においてもそれは同様であった。そこで長久手市では、2012年の町から市への移行を契機として、「幸福度が高いまち＝日本一の福祉のまち」を目指し、以下に紹介する「ながくて幸せのモノサシづくり」を始めた。

「ながくて幸せのモノサシづくり」の核とは、「市民と市役所の協働」による市民の行政参画、すなわち「住民主体のまちづくり」である。長久手市は、市民自治の実践協働研究に通じる草郷をアドバイザーに据え、現状と将来ビジョンを明らかにするための調査に取りかかった。

まず草郷は、独自の調査手法「地域ドック」を展開する。この手法は、地域を人間の体のようにみなし、その地域社会を構成する住民、行政、民間企業などが主体的に地域の「健康状態」に関する情報を収集・診断するものである。当然のことながら「診断」の先には、発見した「強み」あるいは「課題」を自分たちで育てたり、改善することを掲げている。草郷は「地域ドック」の概念の共有のため、「しあわせ」をキーワードとする市民講演会を実施。また、講演会に併せ、理想のまちづくりのために市民参加型のワークショップも行った。これが起爆剤となり、市民有志や若手市職員による「地域ドック」実践チームである「ながくて幸せ調査隊」が発足した。草郷は、調査隊に対し、市民主導型の生活実感調査づくりをアドバイス。調査隊独自の調査票も完成し、2014年2月にはついに「ながくて幸せ実感アンケート」を全市で実施し、調査結果の分析を行うまでに至った。

現在、「ながくて幸せのモノサシづくり」は第2段階を迎え、調査結果の市民へのフィードバックや地域における卓抜した取り組みの評価・発信を行うための「ながくて幸せ実感広め隊」が結成された。これは、地域に好影響を与えるキーパーソン間の繋がりを生むだけではなく、キーパーソンが成功体験を実感することにも直結する。すなわち、活動の主体者自身の幸福を生み、それが新たな活動となって地域に還流するという相乗効果が期待できるのである。

関西大学の役割は、市民と市職員の主体者としての力を引き出し、協働によるまちづくりを展開していく仕組みづくりへのチャレンジである。その取り組みは今まさに実を結びつつある。

成果

- (1) 市民と市職員による生活実感調査の協働（ながくて幸せ実感アンケート調査）
- (2) ながくて幸せ実感調査隊メンバー（市民と市職員）間及び同隊と市役所との信頼関係の醸成
- (3) 「ながくて幸せ実感広め隊」の結成

今後の展望

- (1) 調査結果の集計とフィードバック
- (2) 市民の幸福度を高めるためのまちづくり政策の検討

研究者の紹介



社会学部 教授
草郷 孝好
(くさごう たかよし)

愛知県岡崎市生まれ。東京大学経済学部卒業後、民間企業、世界銀行、国連開発計画、北海道大学、大阪大学等を経て関西大学着任。軽快なフットワークと鋭い観察眼を持って、住民主体の地域発展システムづくりに挑戦する実践的研究者。長久手の活動では、調査隊メンバーとは、お互いにニックネームで呼び合うなどオープンな人柄。スタンフォード大学M.A.（開発経済学）、ウィスコンシン大学マディソン校Ph.D.（開発学）。